

**食品流通合理化検討会 水産分科会**  
**(2月17日)**  
**資料**

---

令和2年2月  
**水産庁**

# 水産流通の合理化に向けた取組方向について

## 特性

## 合理化の方策

## 課題

## 対応方向

- 手荷役作業が多い
- 小ロット多頻度輸送が多い
- 水揚港・魚市場が分散し、鮮度維持が極めて重視される

## 現状

- 地域に点在する小規模で水揚量が少ない産地卸売市場では、買受人やドライバーの減少に伴い、魚価停滞のおそれが増すとともに、物流コストが上昇。昔ながらの生産流通構造の堅持が困難となってくることも発生。
- 荷物の積み換え待ちの際などに、コールドチェーンに切れ目が生じて輸送水産物の温度上昇を招くなど、不測の品質劣化の発生防止に課題。
- 水産物の商品特性に対応すべく、発泡スチロール単位での運送、個社専用配送、単一品目流通が主流。ドライバー不足の中、物流効率化が喫緊の課題。
- 配送・加工の効率化に必要な漁獲情報等を商流関係者が幅広く共有できるに至っていない。

- 入船情報・漁獲情報の早期伝達システム構築
- 電子商取引の推進

- 産地市場の統合・集約化

- 位置・温度状態把握システムの導入

- 共同配送／品目混載の推進

- パレット、カゴ台車による輸送の推進

- コンテナトランスファーステーションの導入

- 沖の情報の早期伝達・共有のメリットについての流通・加工業者の理解が重要。
- 紙による情報伝達を基本とする業務運営とインフラを、電子的システムを導入し、それを活用できる運営体制を構築。

- 物流コストや価格形成面でのメリットがあるが、地域の関係者（漁業者、仲買業者等）の合意形成が困難。  
※小規模な漁村の中には、関係者で連携し、付加価値化に努め、オンリーワンで勝負するところも

- ウィング型トラックの荷出し時の荷置きなど、施設と施設の合間でコールドチェーンが切れる場合もある。
- 保冷車輸送、閉鎖型高度衛生管理型漁港・市場、高性能な冷蔵冷凍施設が整備・普及

- 共同配送や品目混載の取組はコスト削減や人手不足対応として有効であるが、一部の流通業者や産地の先進的取組に留まっている。

- パレット・カゴ台車の活用は労働効率向上に有効だが、流通全体の一部での利用に留まる。
- パレット等は市場等で共有財産として扱われ、紛失のおそれが高いため、個社での導入動機が働きづらい。

- 産地水揚港から輸出港の物流において、ドライバーや輸送車両の不足、漁獲物積込時の渋滞などボトルネックが顕在化。

- 入船情報・漁獲情報の早期伝達システム及び市場卸売業務の電算化システムの構築推進
- 沖合・遠洋の衛星通信の活用促進に向け、官民で検討

- バリューチェーン全体での収益改善のために必要な取組という観点で、将来像を見据えつつ、地域関係者の理解醸成

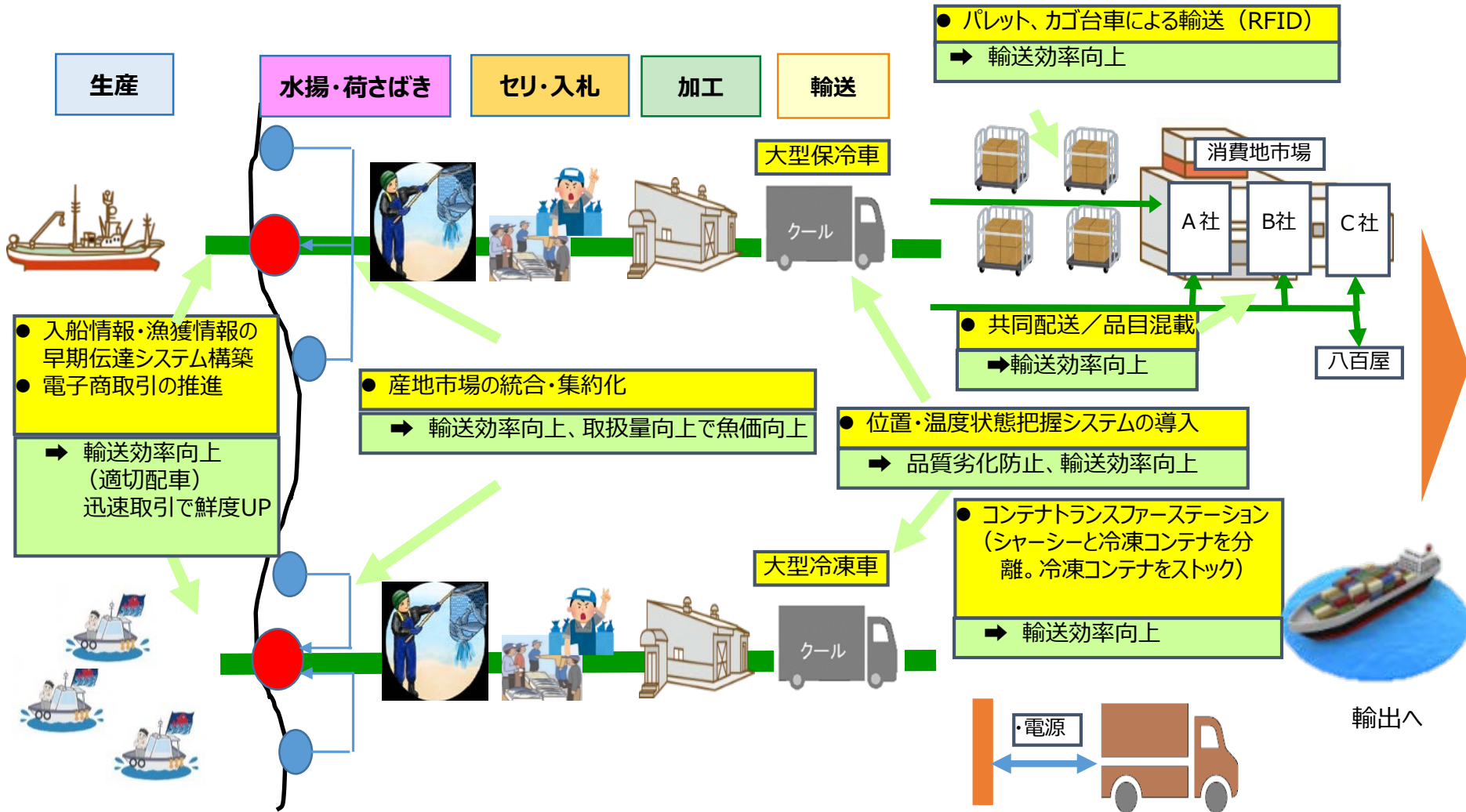
- 位置・温度に関する情報を常時把握し、温度が上昇しやすいポイントを改善し、温度が上昇した際に素早く低温状態を回復できるようにするシステムを構築

- 先進産地や流通業者の取組をモデル化し、横展開を促進
- 水濡れや臭気の発生を防ぐ梱包容器や輸送車両等の開発

- パレット等の位置情報が把握できるシステムの導入検討（RFID等）
- 輸送資材に適合する梱包資材（発泡スチロールや段ボール）の規格の検討

- 産地水揚港にトランスファーステーションを整備し、国内物流のボトルネックを解消し、輸出拡大

# 将来の水産流通の姿について



ICT技術の活用、流通拠点や流通ロットの集約化等により、物流効率を上げ、品質面・コスト面で競争力のある流通構造を確立

# (参考) 「食品流通合理化検討会水産分科会」の開催経過について

## 設立趣旨

- ・トラックドライバーの人手不足が深刻化する中で、国民生活や経済活動に必要な物流を安定確保するには、サプライチェーン全体で物流改善に取り組む必要。
- ・特に食品の輸送は、手荷役作業が多い、小ロット多頻度輸送が多い等の事情から取扱いを敬遠される事例が出てきている。加えて、水産物の輸送には、水揚港・魚市場が分散し、鮮度維持が極めて重視されるという特性。
- ・このため、関係者による水産分科会を設置し、具体的な方策を検討するとともに、その実現を図る。

## 委員名簿

産地 (発荷主)	三浦 秀樹 (全国漁業協同組合連合会 常務理事)	物流業界	椎名 幸子 ( (公社) 全日本トラック協会食料品部会 副会長)
	淀江 哲也 (漁業情報サービスセンター 専務理事)		宿谷 肇 ( (一社) 日本物流団体連合会 理事・事務局長)
	堤坂 猛 (全国水産加工組合連合会 常務理事)		佐藤 修司 ( (公社) 日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所長)
	津田 祐樹 ( (一社) フィッシャーマンズジャパンマーケティング 代表取締役)		西願 廣行 ( (一社) 日本冷蔵倉庫協会 副会長)
着荷主	網野 裕美 ( (一社) 全国水産卸協会 会長)		
	井上 淳 (日本フェイントピア協会 専務理事)		
	江口 法生 ( (一社) 日本スーパーマーケット協会 専務理事)		

## スケジュール

令和元年10月21日 (月)  
水産WG準備会合

- ・株式会社水産流通の取組  
【株式会社水産流通 長本社長】
- ・水産物物流業者の取組  
【椎名委員】

令和元年12月20日 (金)  
第1回水産WG

- ・すくも湾漁協における産地市場統合の取組  
【高知県すくも湾漁業協同組合 河原参事】
- ・気仙沼を水産物流のハブに!  
(地域ぐるみの共同配送モデル)  
【気仙沼漁業協同組合 臼井参事  
気仙沼魚市場買受人協会 阿部理事長】

令和2年2月17日 (月)  
第2回水産WG

- ・漁業構造改革・流通改革の取組みについて  
【日本遠洋旋網漁業協同組合 加藤組合長】
- ・銚子トランスファーステーションについて  
【全国水産加工業協同組合連合会 彌永業務部長  
株式会社三協 根本顧問  
桜木ロジスティクス三部次長】

## (参考) 「食品流通合理化検討会水産分科会」の開催経過について②

### 委員の意見

#### 【物流業界】

- ・サービスはタダだという文化を変えていくことが求められている。コストの見える化をし、効率化をして、物流コストを削減していくことが必要。
- ・日本のコールドチェーンの技術は一定の水準に達しているものの規格化されていない。規格となっていれば、規格を満たすためのコストを価格に転嫁できるのではないか。
- ・正しい情報を伝え、コストがどこにかかっているかを、顧客に理解してもらうことが必要。
- ・洋上の情報を陸上へ速やかに提供することは、長距離輸送が多い水産物流において、ドライバーの事前待機も解消され、車両の効率的運用につながる。
- ・産地市場の統合は、簡単に解決できる問題ではないが、物流面からはプラス。
- ・パレットは紛失することが常態化しており、不要なパレットの廃棄にも費用がかかっている。
- ・十分なパレットの供給、箱の統一規格などの開発が必要。
- ・小ロットでの発送はパレットに馴染まない。
- ・消費地市場以降はパレットよりカゴ台車での輸送が中心。
- ・ ○ ○
- ・ ○ ○

#### 【産地及び市場】

- ・コストを下げることは限界に近づいており、魚価、売上、利益を上げることにフォーカスした議論が必要。
- ・取組を価格に反映させることが重要。
- ・大衆魚と高級魚では流通が異なっている上に、流通現場では人手不足が深刻。
- ・沖の情報を早く提供し、流通・加工の業者と共有するメリットを理解してもらうことが重要。
- ・産地市場を統合することで、ある程度の量が一カ所にまとまることで輸送がスムーズになり、流通業者と産地仲買が協力して運送コストを下げることができ、魚価に反映され、高値に一役買っている。
- ・産地市場統合は、規模で分けて考えることが必要。また、様々な事情を抱えており集約は難しい問題。
- ・ ○ ○
- ・ ○ ○